

〈特集「モダリティ」〉

スペイン語のモダリティ Modality in Spanish

喜多田 敏嵩¹, 堀江 舞柚²
Toshitaka Kitada, Mayu Horie

¹ 東京外国語大学語学研究所特別研究員
Special Researcher of the Institute of Language Research, Tokyo University of Foreign Studies

² 東京外国語大学大学院総合国際学研究科
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、特集補遺「モダリティ」(『語学研究所論集』第16号, 2011年, 東京外国語大学)に寄与するものである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Modality’ (*Journal of the Institute of Language Research* 16, 2011, Tokyo University of Foreign Studies).

キーワード：スペイン語、モダリティ

Keywords: Spanish, Modality

今回のアンケート調査に際して、喜多田はスペイン出身の母語話者1名、堀江はボリビア出身の母語話者1名の協力を得た¹。本稿の執筆は喜多田が担当し、(1-k) や (2-h) のように例文番号末尾に k/h を付して、喜多田 (k) と堀江 (h) どちらの訳出であるかを明記した。また、同一の報告者から複数の訳出が提出された場合については、(1-k)(1-h-1)(1-h-2) のように表記した。なお、喜多田・堀江の間で相違点の見られない例文については喜多田の訳 (k) を優先的に採用している。

(1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

(1-k) Ya puedes irte.

Ya	pued-es	ir=te.
already	can-IND.PRES.2SG	go.INF=PN.REFL.2SG

許可は、可能を表す法助動詞 *poder* を用いた迂言形式 *poder* + 不定詞で表現するのが一般的である。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ 喜多田は自身で西訳を行った後、スペインの母語話者に添削を依頼した。堀江は日本語・英語による説明を行った後、ボリビアの母語話者に西訳を依頼した。

(2) (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな。

(2-k-1) No puedes comerlo.

No pued-es comer=lo-Ø.
NEG can-IND.PRES.2SG eat-INF=PN.ACC.M.3-SG

(2-k-2) No lo comas.

No lo-Ø com-as.
NEG PN.ACC.M.3-SG eat-SBJV.PRES.2SG

禁止は (2-k-1) にあるように、可能の法助動詞 *poder* の迂言を否定文で用いるか、(2-k-2) のように、否定命令を用いて表す。スペイン語の否定命令は、否定辞 *no* と動詞の接続法現在の組み合わせで表す。

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

(3-k) Tenemos que irnos ya.

Ten-emos que ir=nos ya.
have-IND.PRES.1PL that.CONJ go-INF=PN.REFL.1PL already

(3-h) Debemos ir a casa ahora.

Deb-emos ir a casa ahora.
must-IND.PRES.1PL go-INF to house now

義務の表現には、迂言形式 *tener que*+不定詞/*deber*+不定詞を用いるのが一般的である。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

(4-k) Es mejor llevar el paraguas.

Es mejor-Ø llevar el paraguas.
be-IND.PRES.3SG better-ADJ-SG take-INF ART.DEF.M.SG umbrella

(4-h) Mejor si llevas un paraguas.

Mejor-Ø si llev-as un-Ø paraguas.
better-ADJ-SG if take-IND.PRES.2SG ART.INDF.M-SG umbrella

推奨は、比較級の形容詞 *mejor* (より良い) と推奨内容を表す名詞節をコンピュータで繋いだ形式で表す。なお、喜多田による (4-k) では *paraguas* (傘) が定冠詞を伴っているが、これは唯一性条件を満たさない弱定名詞句 (weak definite) であると考えられる。

(5) 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ/聞くものだ。

(5-k) Cuando envejecemos, debemos hacerles más caso a los hijos.

Cuando envejec-emos, deb-emos hacer=le-s más caso
when.CONJ age-IND.PRES.1PL must-IND.PRES.1PL do-INF=PN.DAT3-PL more-ADJ.M.SG case

a los hij-o-s.
to ART.DEF.M.PL child-M-PL

(5-h) Cuando seas mayor, deberías escuchar a tus hijos.

Cuando sea-s mayor-Ø, deber-ías escuchar a tu-s
when.CONJ be-SBJV.PRES.2SG older-SG must-IND.COND.2SG listen-INF to POSS.2SG-PL

hij-o-s.
child-M-PL

評価的義務は、通常の義務と同様に迂言形式 tener que 不定詞/deber+不定詞を用いて表現する。

(6) お腹が空いたので、(私は)何か食べたい。

(6-k) Tengo hambre y quiero comer algo.

Tengo hambre y quier-o comer algo.
have.IND.PRES.1SG hunger and want-IND.PRES.1SG eat-INF something

希望は、欲求を表す動詞 querer を用いた迂言形式 querer + 不定詞で表現するのが通例である。

(7) 私が持ちましょう。

(7-k) Voy a llevarlo yo.

Voy a llevar=lo-Ø yo.
go.IND.PRES.1SG to take-INF=PN.ACC.M.3-SG PN.NOM.1SG

(7-h) Déjame llevarlo.

Déja=me llevar=lo-Ø.
let-IMP.2SG=PN.DAT.1SG take-INF=PN.ACC.M.3-SG

意志を表す専用の形式はないが、(7-k) のように近接未来を表す迂言形式 ir a+不定詞を用いることで主語の意志を表現することができる。くわえて、(7-k) では動作主である 1 人称単数の主語人称代名詞 yo を動詞後方の焦点位置で明示することで「あなたではなく私が持つ」という対比的ニュアンスが生じていることも、意志の表現に寄与していると考えられる。ほかにも、(7-h) のように dejar による許可使役構文を肯定命令形にすることで「私に持たせてくれ」という意の訳出も可能である。

(8) じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。

(8-k) Entonces vamos a almorzar juntos.

Entonces vamos a almorzar junt-o-s.
then go.IND.PRES.1PL to lunch-INF together-M-PL

(8-h) Bueno, almorcemos juntos.

Bueno, almorc-emos junt-o-s.
well.INTJ lunch-SBJV.PRES.1PL together-M-PL

勧誘は様々な手段で表現されるが、近接未来の迂言形式 *ir a* + 不定詞を直説法現在 1 人称複数形で用いた *vamos a* 不定詞が代表的である。ほかにも、肯定命令の 1 人称複数が勧誘の意味で用いられる。

(9) 一緒に昼ご飯を食べませんか？

(9-k) ¿Por qué no almorzamos juntos?

¿Por qué no almorzamos juntos?
for what.INTRR NEG lunch-IND.PRES.1PL together-M-PL

(9-h) ¿Quisieras que almorcemos juntos?

¿Quisieras que almorcemos juntos?
want-SBJV.PST.IPFV.2SG that.CONJ lunch-SBJV.PRES.1PL together-M-PL

相手の意向が不明な場合の勧誘は、何らかの婉曲表現が使用されることが多い。(9-k) では、理由を問う疑問詞 *por qué* による疑問詞疑問文「なぜ我々は昼食を共にしないのか？」から勧誘の意が遠回しに表されている。対する (9-h) は「我々が昼食を共にすることを君は欲するか？」という肯否疑問文となっているが、主動詞 *querer* (～を欲する) が接続法過去になっている点に婉曲が観察される²。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

(10-k-1) Espero que haga buen tiempo mañana.

Espero que haga buen tiempo mañana.
hope-IND.PRES.1SG that.CONJ do-SBJV.PRES.3SG good-M.SG weather tomorrow

(10-k-2) ¡Ojalá haga buen tiempo mañana!

¡Ojalá haga buen tiempo mañana!
hopefully do-SBJV.PRES.3SG good-M.SG weather tomorrow

希望は、(10-k-1) のように *esperar* (～を望む) に代表される願望の他動詞に *que* が導く接続法の名詞節を直接目的語として後続させることで表現することができる。または (10-k-2) にあるように、*ojalá* + 接続法を用いるという方法も存在する。*ojalá* による願望表現は、祈願内容の話し手から見た実現可能性によって後続する接続法の時制が異なり、今回のように現実性のある場合には接続法現在が用いられる。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

(11-k) Tráemelo ya.

Tráemelo ya.
bring-IMP.2SG=PN.DAT.1SG=PN.ACC.M.3SG already

命令には、命令法が用いられるのが一般的である。スペイン語における命令法は、その活用体系の大部分が接続法現在と一致するが、(11) のような 2 人称に対する肯定命令は特殊な形をとる。2 人称単数に対する肯定命令は直説法現在の 3 人称単数形と同形であり、2 人称複数へ肯定命令を行う場合は、不定詞の語末 *r* を *d* に置換することで活用形が得られる。なお、肯定命令においてクリティックは命令

² (9-h) の接続法過去 *quisieras* は、直説法過去未来 *querrias* に相当する形式として婉曲を表している。

形の語尾に後接する。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか?

(12-k) ¿Podría prestarme esa pluma?

¿Podr-ía prestar=me es-a-Ø pluma?
can-IND.COND-.3SG lend-INF=PN.DAT.1SG that.DEM-F-SG pen

(12-h) ¿Me prestas ese bolígrafo?

¿Me prest-as es-e bolígrafo?
PN.DAT.1SG lend-IND.PRES.2SG that.DEM-M.SG pen

懇願についても、何らかの婉曲表現が使用されるのが通例であるが、婉曲の要素が言語表現の中に顕在的に現れる必要はない。事実 (12-k) は可能を表す迂言形式 poder+不定詞の poder が直説法過去未来形になることで婉曲が表現されているが、(12-h) は顕在的な婉曲表現を持たず、「君はそのボールペンを私に貸すか?」を意味している。

(13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

(13-h) Él puede leer chino.

Él pued-e leer chino.
PN.NOM.M.3SG can-IND.PRES.3SG read-INF Chinese

(13-k-1) Él sabe leer chino.

Él sab-e leer chino.
PN.NOM.M.3SG know-IND.PRES.3SG read-INF Chinese

(13-k-2) Él lee chino.

Él le-e chino.
PN.NOM.M.3SG read-IND.PRES.3SG Chinese

学習書では「能力可能には saber+不定詞を、状況可能には poder+不定詞を用いる」と言った説明がなされることが多いが、poder+不定詞は能力可能・状況可能も表すことができる生産性の高い能力表現であるのに対して、saber+不定詞は能力可能に特化した表現であるうえ読み書きや自動車の運転など以外の動作を表す動詞と組み合わせるのは困難であることから、その生産性は高くない。なお (13-k-2) に示すように、動詞の直説法現在が単独で用いられ、習慣的な解釈から可能の意味が生じる場合もある。

(14) 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。

(14-k) Está oscuro y no puedo leer lo que está escrito aquí.

Est-á oscur-o-Ø y no pued-o leer lo que
be-IND.PRES.3SG dark-M-SG and NEG can-IND.PRES.1SG read-INF ART.DEF.N that.REL

est-á escrit-o-Ø aquí.
be-IND.PRES.3SG write.PP-M-SG here

前述の通り、状況可能には *poder* + 不定詞が用いられるのが通例である。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。

(15-k-1) Ellos ya habrán llegado.

Ellos	ya	habr-án		lleg-ad-o-Ø.
PN.NOM.M.3PL	already	have-IND.FUT.PRF.3PL		arrive-PP-M-SG

(15-k-2) Ellos ya deben haber llegado.

Ellos	ya	deb-en	haber	lleg-ad-o-Ø.
PN.NOM.M.3PL	already	must-IND.PRES.3PL	have-INF	arrive-PP-M-SG

(15-h) Estoy seguro de que ya llegaron.

Estoy	segur-o-Ø	de	que	ya	lleg-aron.
be.IND.PRES.1SG	sure-M-SG	of	that.CONJ	already	arrive-IND.PST.3PL

確信に関しては、現在完了の推量を表す未来完了を用いた (15-k-1)、推量を表す迂言形式 *deber* + 不定詞における不定詞に複合形 *haber* + 過去分詞を用いた (15-k-2)、そして *estar seguro de que...* (～と確信している／きっと～である) を用いた (15-h) の3種類の訳出が得られた。

(16) (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。

(16-k-1) Probablemente él no vendrá mañana.

Probablemente	él	no	vendr-á	mañana
probably	PN.NOM.M.3SG	NEG	come-IND.FUT.3SG	tomorrow

(16-k-2) Quizás él no venga mañana.

Quizás	él	no	veng-a	mañana.
maybe	PN.NOM.M.3SG	NEG	come-SBJV.PRES.3SG	tomorrow

推量は *probablemente/quizás* のような疑いの副詞を種々の動詞活用形と組み合わせることで表現するのが通例である。スペインの母語話者によれば、動詞の活用形は蓋然性の高い順から直説法現在形・直説法未来形・接続法現在形を用いるとのことである。なお、*quizá(s)* に関しては、川上 (2018) をはじめとして日本語の「たぶん」よりも表す蓋然性が低いという指摘が存在し、「たぶん～だろう」の対訳として必ずしも適格であるとは言えない。

(17) 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

(17-k) Ellos no han llegado todavía. Me pregunto si se ha roto el coche.

Ellos	no	han	lleg-ad-o-Ø	todavía.	Me	pregunt-o
PN.NOM.M.3PL	NEG	have.IND.PRES.3PL	arrive-PP-M-SG	yet	PN.DAT.1SG	ask-IND.PRES.1SG
si	se	ha	rot-o-Ø	el	coche.	
if	PN.REFL.3	have.IND.PRES.3SG	break.PP-M-SG	ART.DEF.M.SG	car	

- (17-h) No puedo creer que aún no hayan venido. Su coche debe haberse dañado en el camino.
 No puedo creer que aún no hay-an ven-id-o-Ø.
 NEG can-IND.PRES.1SG think-INF that.CONJ yet NEG have-SBJV.PRES.3PL come-PP-M-SG
- Su-Ø coche deb-e haber=se dañ-ad-o-Ø en el
 POSS.3-SG car must-IND.PRES.3SG have-INF=PN.REF.3 damage-PP-M-SG on ART.DEF.M.SG
- camino.
 way

疑念については、preguntarse si (～であるか自らに問う) を用いた (17-k)、および (15-k-2) と同じく deber+不定詞を用いた (17-h) の2文が得られた。

- (18) (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。
 (18-k) Puede que esté o puede que no esté en casa.
 Pued-e que él est-é o pued-e que
 can-IND.PRES.3SG that.CONJ PN.NOM.M.3SG be-SBJV.PRES.3SG or can-IND.PRES.3SG that.CONJ
- no est-é en casa.
 neg be-SBJV.PRES.3SG in house

- (18-h) Bueno, puede estar o puede no estar en casa.
 Bueno, pued-e estar o pued-e no estar en casa.
 well can-IND.PRES.3SG be-INF or can-IND.PRES.3SG NEG be-INF in house

可能性に関しては、poder+不定詞および puede que+接続法の2種類の訳が得られた。(15)-(18) で使用される蓋然性の表現はあまり重複しなかったが、(15-k-2) と (17-h) の重複が示すように、スペイン語における確信・推量・疑念・可能性の表現は連続的であり、使用される表現に明確な区別は見られない。

- (19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。
 (19-k-1) Parece que tienes fiebre.
 Parec-e que tien-es fiebre.
 seem-IND.PRES.3SG that.CONJ have-IND.PRES.2SG fever
- (19-k-2) Creo que tienes fiebre.
 Cre-o que tien-es fiebre.
 think-IND.PRES.1SG that.CONJ have-IND.PRES.2SG fever

視覚/聴覚以外の感覚による判断に関しては、上記2つのスペイン語が得られた。(19-k-1) は parecer (～のように見える・思える) を用いられ、視覚の動詞が転用された表現となっているのに対して、(19-k-2) は creer(思う・考える) を用いた知的判断を表す表現となっている。いずれの場合においても、接続法は用いられていない。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

(20-k) Dicen que va a llover mañana.

Dic-en que va a llover mañana.
say-IND.PRES.3PL that.CONJ go.IND.PRES.3SG to rain.INF tomorrow

伝聞は、「言う」「聞く」の意を表す動詞を用いて表現されることが通例であり、(20-k) では「言う」を表す動詞 decir が使用されている。(19) と同様、従属節内の叙法は直説法が選択されている。

(21) もしお金があつたら、あの車を買うんだけどなあ。

(21-k) Si tuviera dinero, compraría ese coche.

Si tuvier-a dinero, comprar-ía es-e coche.
if have-SBJV.PST.IPFV.1SG money buy-IND.COND.1SG that.DEM-M.SG car

スペイン語における現在の反実仮想は [si 接続法過去, 直説法過去未来] の形式が使用される。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

(22-k) Si no me lo hubieras dicho, no habría podido llegar allí.

Si no me lo hubier-as dich-o-Ø, no habr-ía
if NEG PN.DAT.1SG PN.ACC.N.3 have-SBJV.PST.IPFV.2SG say-PP-M-SG, NEG have-IND.COND.1SG

pod-id-o-Ø llegar allí.
can-PP-M-SG arrive.INF there

(22-h) Si no me lo hubieses dicho, no hubiese llegado.

Si no me lo hubies-es dich-o-Ø,
if NEG PN.DAT.1SG PN.ACC.N.3 have-SBJV.PST.IPFV.2SG say-PP-M-SG

no hubies-e lleg-ad-o-Ø.
NEG have-SBJV.PST.IPFV.1SG arrive-PP-M-SG

過去の反実仮想についても同様に [si 接続法過去完了, 直説法過去未来完了] の形式が使用される。ただし、(22-h) のように主節にも接続法過去完了が用いられることも少なくない。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

(23-k) Él quiere ir a la ciudad.

Él quier-e ir a la-Ø ciudad
PN.NOM.M.3SG want-IND.PRES.3SG go.INF to ART.DEF.F-SG city

3人称の主体による希望は、1人称の希望と同じ形式が用いられる。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

(24-k) Déjame beber un poco de eso.

Déj-a=me beber un-Ø poco de es-o.
let-IMP.2SG=PN.DAT.1SG drink.INF ART.INDF.M-SG little of that.DEM-N

1 人称命令は、(7-h) と同様、許可使役構文を命令法で用いることで表現する。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

(25-k-1) Que lleve esto.

Que llev-e est-o.
that.CONJ take-SBJV.PRES.3SG this.PN-N

(25-k-2) Hazle llevar esto.

Haz=le llevar est-o.
make.IMP.2SG=PN.DAT.3SG take.INF this.PN-N

(25-h) Deja que él lo lleve.

Dej-a que él lo-Ø llev-e.
let-IMP.2SG that.CONJ PN.NOM.M.3SG PN.ACC.M-SG take-SBJV.PRES.3SG

3 人称命令は (25-k-1) のように間接命令を表す Que+接続法現在を用いることで表現できる。他にも (25-k-2) (25-h) のように強制使役・許可使役の構文を命令法で用いることでも表すことができる。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

(26-k) Come después los dulces de la mesa.

Com-e después los dulce-s de la-Ø mesa.
eat-IMP.2SG later ART.DEF.M.PL sweet-PL of ART.DEF.F-SG table

遠未来の命令は、通常の命令と同じ方法で表現される。

(27) もっと早く来ればよかった。

(27-k-1) Ojalá hubiera venido antes.

Ojalá hubier-a ven-id-o-Ø antes.
hopefully have-SBJV.PAST.IPFV.1SG come-PP-M-SG earlier

(27-k-2) Tenía que haber venido antes.

Ten-ía que haber ven-id-o-Ø antes.
have-IND.PST.IPFV.1SG that.CONJ have.INF come-PP-M-SG earlier

(27-k-3) Debería haber venido antes.

Deber-ía haber ven-id-o-Ø antes.
must-IND.COND.1SG have.INF come-PP-M-SG earlier

顕在的な条件節を伴わない過去の反実仮想については、(10-k-2) に現れた *ojalá* に接続法過去完了を用いた願望表現の (27-k-1)、義務の迂言形式 *tener que*+不定詞/*deber*+不定詞を用いて「～すべきだった (のにしなかった)」と言う意味を表した (27-k-2) (27-k-3) の3種類の訳が得られた。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

(28-h) ¿Si vas con ellos?

¿Si vas con ellos?
if go.IND.PRES.2SG with PN.PREP.3PL

脱従属化はスペイン語においても起こることが確認されている。たとえば、条件を表す接続詞 *si* が導く従属節は末尾に上昇イントネーションを帯びて発話されるが、脱従属化が起こると、一般的な平叙文と同様に下降イントネーションを伴って発話されて、反駁などのフェイス侵害行為を表す (Schwenter 2016)。(28) は上昇イントネーションで提案を表す疑問文であることから上記の特徴が観察されず、脱従属化が生じているかを判別できない。スペイン語の接続詞 *si* が引き起こす典型的な脱従属化は、Schwenter (2016: 90) が挙げるような以下のケースで観察される。

(28-h)' A: Los primos van a llegar esta tarde. 「従兄弟たちが午後に着くよ。」

B: ¿Si ya han llegado esta mañana! 「午前中にもう着いてるよ！」

Los prim-o-s van a llegar est-a-Ø tarde.
ART.DEF.M.PL cousin-M-PL go-IND.PRES.3PL to arrive-INF this.ADJ-F-SG afternoon

¿Si ya han lleg-ad-o-Ø est-a-Ø mañana!
if already have.IND.PRES.3PL arrive-PP-M-SG this.ADJ-F-SG morning

(28-h)' にて B が発した第二文は「従兄弟たちが午後に着く」という A の発言が、「彼らは午前中にすでに到着している」という事実と一致しないことを指摘するものである。上述のとおり、*si* が本来有する条件の意味に代わって新たな意味を獲得しており、下降イントネーションを帯びて発話されるのが特徴である。

(29) オレがそんなこと知るか!

(29-k-1) ¿Cómo voy a saberlo yo!

¿Cómo voy a saber=lo yo!
how go.IND.PRES.1SG to know.INF=PN.ACC.N.3 PN.NOM.1SG

(29-k-2) ¿Yo qué sé!

¿Yo qué sé!
PN.NOM.1SG what.INTRR know.IND.PRES.1SG

(29) は疑問詞を含まない反語に関する例文であるが、スペイン語で得られた2つの訳のいずれにも疑問詞が生じた。(29-k-1) は *cómo* (どのように・どのような) が用いた反語表現「私がどうやってそれを知ることになるのか! (いや、知るはずがない)」であるのに対して、*qué* (何) を用いた (29-k-2) は「そ

んなこと知るか！」を表す定型表現である。

(30) これを作った (料理した) のは、お母さんだよな? / いいえ、私が作ったのよ。

(30-k) Fue tu madre quien hizo esto, ¿verdad? - No, lo hice yo.

Fue tu-Ø madre quien hiz-o est-o, ¿verdad?
be.IND.PST.3SG POSS.2SG-SG mother who.REL make-IND.PST.3SG this.PN-N truth

No, lo-Ø hic-e yo.
no PN.ACC.M.3-SG make-IND.PST.1SG PN.NOM.1SG

付加疑問文は、(30-k) のように「真実」を意味する名詞 *verdad* を付加することで作ることができる。*verdad* のほかに否定辞 *no* などを付加することもできるが、*no* による付加疑問文は肯定の返答を期待する点で *verdad* の付加疑問文とは異なる。

略号一覧

-	inflexion	FUT	future	PP	past participle
=	clitic boundary	IMP	imperative	PREP	prepositional
1	first person	IND	indicative	PRES	present
2	second person	INDF	indefinite	PRF	perfect
3	third person	INF	infinitive	PST	past
ACC	accusative	INTJ	interjection	REFL	reflexive
ADJ	adjective	IPFV	imperfective	SBJV	subjunctive
ART	article	M	masculine	SG	singular
CONJ	conjunction	NEG	negative		
DAT	dative	NOM	nominative		
DEF	definite	PL	plural		
DEM	demonstrative	PN	pronoun		
F	feminine	POSS	possessive		

参考文献

- 川上茂信. 2018. 「Quizás と「たぶん」」. 『語学研究所論集』23, pp. 1-16.
Schwenter, Scott A. 2016. “Independent *si*-clauses in Spanish”. in N. Evans & H. Watanabe (eds.) 2016. *Insubordination*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. Chap. 4, pp. 89-112.

執筆者連絡先 : kitada_toshitaka@tufs.ac.jp, horie.mayu.s0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2022年12月24日